

信用取引の実際について～アホルダーの防ぎ方（その1）

信用取引とは、証券会社からお金や株を借りて取引をすることをいいます（全額自己資金で取引をする場合は現物取引といえます）。

信用取引には、次のようなメリットがあります。

僅かな自己資金で大きい金額の取引をすることができる

レバレッジ効果(てこの原理、少ない労力で大きいものを動かせる力)が期待できます。

例: 運用資金 100 万円、内自己資金 30 万円の場合

A株を 100 万円で買い、160 万円で売却したとするとリターンは、

$$(160 - 100) \div 30 \times 100 = 200\%$$

となり、現物取引の場合(60%)と比べて、高いパフォーマンスになります。

株価が下がっても利益を出す取引をすることができる

現物取引では、株価が上がった時しか利益を上げることはできませんが、信用取引の場合、「売り」を行うことによって、株価が下がった時でも利益を上げることができます。

例: B株が下がることを見越して、先にB株を 100 万円で売った場合

) B株を借りる

) B株を 100 万円で売る(これにより、まず 100 万円の利益を得る)

その後、株価が 100 万円 70 万円に下がったとすると・・・

) B株を買い戻す

) 買い戻した株を処分する

) 結局、 $100 - 70 = 30$ で 30 万円の儲けとなる

このように、目の肥えた投資家にとっては、信用取引は短期間で大きく利益を得ることのできる方法といえることができます。